



「レジリエンス」向上のために、「環境基盤」整備のあり方を追求

研究者としての原点は何ですか。

増田 専門は都市・建築環境工学、設備工学で、最大の関心事は「サステナビリティ（持続可能性）」です。高校～大学生の頃、阪神・淡路大震災や、地下鉄サリン事件が発生したのを見て、都市がとても過密で、多くの問題を孕んでいることに気づきました。今の都市は50年後も大丈夫か、維持できるのか、大きな不安と危機感を持ったのが原点です。

主な研究テーマを教えてください。

増田 主なテーマの一つは「レジリエンス」、すなわち「何が起きても

乗り越えられる能力」です。災害発生後、都市の復原にはインフラの力が重要です。都市設備的な「社会資本」と、水や緑、風等の「自然資本」を合わせた「環境基盤」のあり方や、設備やマネジメント等の共用の仕組みと仕掛け、次世代の面向インフラの姿などを追求しています。

その他、スマートシティや、エリアマネジメント、気象災害対策などの研究にも、近年力を注いでいます。

地域熱供給（地域冷暖房）についてはいかがでしょうか。

増田 热供給エリアは、共有のシス

テム、マネジメント等の対策対象としてちょうどよい規模感なので、注目しています。また、「熱」は、システムがダウンしても、すぐゼロにならずに緩やかに減っていくエネルギーなので、災害対策への活用にも大きな可能性を感じています。

最後に今後の展望をお願いします。

増田 工学研究は、研究者の主観が大事です。本当の幸せ、豊かさとは何か。どのような社会をつくりていきたいか。そのあたりを顧みながら、研究を進めていきたいと思います。

（取材：広報委員長 鈴木 成則）